

第4回GISセミナー（岡山） 講演概要

●事例紹介1「おかやま全県統合型GISについてーおかやまオリジナルマップとは」 講師：岡山県企画振興部情報政策課 松元 繁夫 氏

【おかやま全県統合型GIS】

岡山県の統合型の取り組みですが、まず13年度、基本システム開発で、もともと土地利用情報システムという個別のGISを導入する話が出たようですが、検討した結果、統合型GISを導入しようということになり、平成14年4月から運用を開始しています。その後、防災情報や家畜防疫情報の整備や世界測地系などへの対応を行ってきました。昨年度、リース満了ということもあり、システムの再構築を行い、平成18年4月から新システムで運用の方を始めています。その後、6月29日からおかやまオリジナルマップの運用を開始しました。

本県の統合型GISの構成は、職員が業務で使用する庁内GIS、主にインターネットで行政情報を公開している庁外GISとなっています。

基本空間データ（ベースマップ）としては国土地理院の数値地図（1/2万5,000、1/5万、1/10万）、それよりもさらに詳細な住宅地図、デジタルオルソ画像（航空写真）を使っています。その上に、庁内の各課から横断的に見られる共通主題データ、それに対して、個別主題データ、本来これは個別型GISで使うようなデータですが、個別型GISを導入することができない課もあるので、その課だけで見えるような使い方もしています。

それから、空間データの関連図ですが、これが庁内版の主題図をまとめた状態です。背景情報というのがベースマップで、それに対して下の各種主題情報の7つの情報を整備しています。

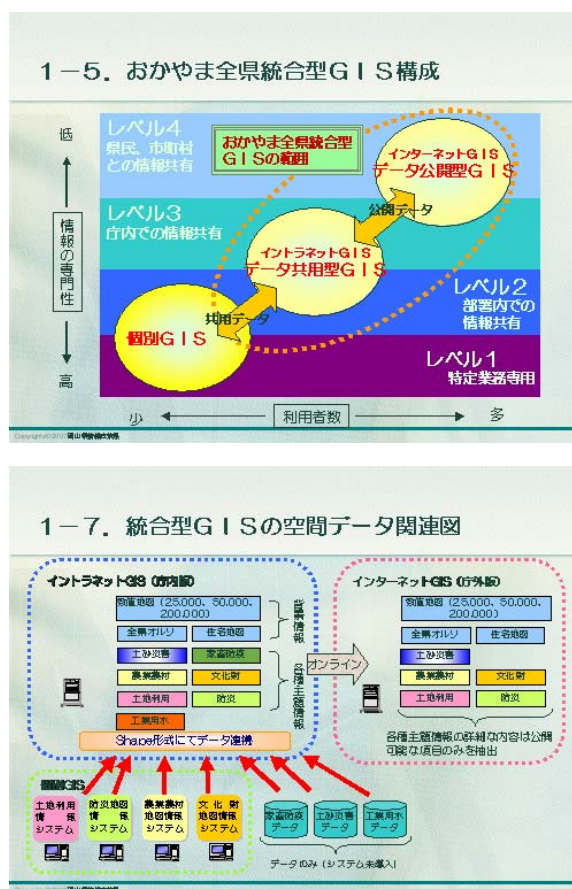
それに対して、インターネットGISは、家畜防疫情報のように農家の個人情報等もあり、公開できませんので、それ以外の主題図を公開しています。

個別GISとその右側の「データのみ」というのは、個別型GISは導入しておらず、主題図だけ整備して運用しています。

庁内的な管理・運営体制ですが、主に各課長を委員として構成されている運営協議会をつくっています。それに対して、主にGISを使用する担当者で構成しているワーキンググループをつくっています。このワーキンググループは担当者が毎年変わるのでたいへんです。

【統合型GISのシステム更新】

庁内GISについて、14年度から運用していますが、整備済みの共有空間データが7つというのは、運用を始めて4年としてはちょっと寂しいと思います。これは幾つか原因がありますが、システム的な要素としては、土地利用情報以外の主題図はGISを使って修正・作成ができない、また他のGISからのデータの取り込みもできないというものになっておりました。そのため、主題図を作成・更新する場合には業者に委託しなければならない、予算化しないと整備ができないという問題があり、普及が進まなかったということもありました。



そういった問題点を踏まえ新しいシステムでは、各課職員で主題図の作成、修正、削除等ができるようにしています。また、標準的なフォーマット（shape 形式など）での外部とのデータ連携機能も追加しています。

庁外GIS（インターネットGIS）について旧システムでは、空間データは閲覧するだけとなっていました。また地図の表示画面が小さく見にくいといったこともありました。これは技術的な問題ではなく、平成13年の開発当時は現在のようにブロードバンド化が進んでいなかったことも考慮して画面を小さくしたと聞いています。更新・管理に関しても全部業者に委託していたという状況でした。

それに対して新しいシステムは、インターネットからの地図の書き込み機能を加えました。これはID・パスワードでログインすればGISが使用できるものです。その機能はGISを閲覧するだけでなく県民に使っていただくということで、おかやまオリジナルマップという名前で運用を開始しています。また、GPS機能付き携帯電話との連携機能も持たせています。

GPS機能付き携帯電話との連携機能ですが、携帯電話から本県のWebサイトにアクセスし、画面の指示に従ってメールを送ると庁外GISに位置情報（緯度・経度）と通報内容、写真が添付されていたら写真もその場所にプロットできるといったシステムです。庁外GISでメールを10分毎に監視しており、通報メールがあればシステムに登録している担当者へメールが送られるようになっています。担当者の方はそのメールを確認して庁外GISにログインして通報情報を確認するということが可能となっています。

この機能を使い、昨年の12月から不法投棄110番で運用を開始していますが、残念ながらまだGPS携帯を使った通報は行われていません。

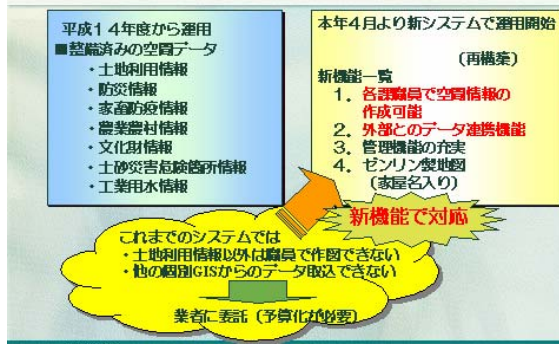
【おかやまオリジナルマップ】

おかやまオリジナルマップはインターネットを通じて、町内会、NPO、教育機関などの各種団体から地図の作成をしていただくというものです。GISなので随時修正、最新情報の掲載、情報の共有が可能で、紙に比べて修正が簡単だというメリットがあります。

オリジナルマップの作成例です。はじめに通学路安全マップについてですが、各学校で通学路の安全意識の向上を図るために作成し、新入生に紙で配布しているマップがあります。このマップをおかやまオリジナルマップで作成していただくことで修正や再配布が容易になると思います。

次いで地域防災マップです。これは各町内会が中心になると思いますが、地区の防災情報（消火栓の位置、危険箇所、避難所の位置）を防災マップとしてつくられている町内会もありますので、おかやまオリジナルマップで防災マップを作成していただければと思っています。

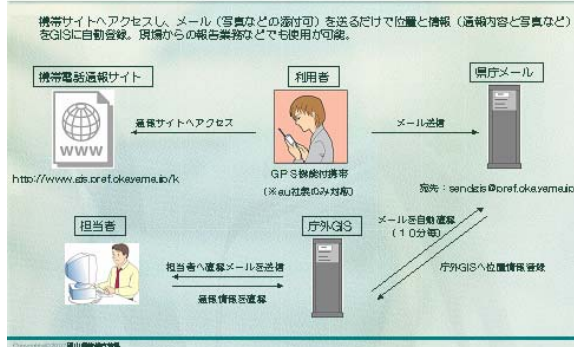
2-1. 統合型GISシステム更新（庁内GIS）



2-2. 統合型GISシステム更新（庁外GIS）



2-3. 携帯電話通報システム



おかやまオリジナルマップは平成 18 年 6 月 29 日から運用を開始しており、現在 26 団体に実際に使われています。そのうち、8 割が作成例にあげた 2 つマップということで、今後はマップの種類を増やしていきたいと思っています。

【おかやまオリジナルマップの利用方法】

最後に、おかやまオリジナルマップを利用したい場合ですが、ネットに掲載している利用規程を読んで、申請書に必要事項を書いて提出していただきます。その後、情報政策課で審査を行い、問題がなければ使用承認書をお渡しいたします。この後、使用するレイヤと属性項目等についてヒアリングを行い、システムへの登録後にユーザー ID、パスワードをお渡しして使っていただくという流れになっています。

町内会や学校の関係者の方などを中心に、地図に関してかなり関心を持たれており、今後は試作版の作成も行いながらご要望に応じていきたいと思っています。

